

は じ め に

2007年のノーベル平和賞を、アル・ゴア前米副大統領と IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が受賞しました。授賞理由は、人間の活動に起因する気候変動についての知識を広め、必要な対応策の基礎を築くよう努力したことなどが上げられ、今こそ気候変動の兆候を最大限深刻に受け止め、行動が必要であると訴えています。

地球温暖化は、人類が火を使うようになったときから始まったといえます。人類が洞窟の中でささやかに火を使っていた時代は良かったものの、六十六億三千万の人間が多量の化石燃料を使いダイナミックに活動をすれば、莫大な CO₂が発生し、地球規模での環境破壊を引き起こすことは想像に難くありません。地球に生きる人類の一人として、アジアの住民として、日本国民の一人として、今、この地球温暖化の問題を真剣に考え、行動しなければいけない時が来ているようです。

日本人は古くから、自然に畏敬の念をもって接してきました。それは日本独特の気候風土の中で、山や森や溪谷が見せる自然美、四季折々に変化する自然、その繊細さ、雄大さは、自然が人間を超えたはるかに大きな存在であると感じる日本人の自然観に由来するものと考えられます。このような日本人の自然観の中に、今日の環境問題を解決する糸口が隠されているかもしれません。

さて、当研究所は、試験研究機能と併せて環境啓発の拠点施設としての役割も担っております。このことから、この地球規模での環境問題に対処すべく、日本人の中に眠っている特有の自然観を呼び覚ますような環境啓発事業を展開していければと考えております。

ここに平成 18 年度の所報を発刊いたしました。ご高覧いただき、ご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成 19 年 10 月

熊本市環境総合研究所長
田 島 幸 治